

第2期鋸南町まち・ひと・しごと創生総合戦略 実施状況（令和5年度分）

基本目標	担当課	実施した事業内容	成果	課題	今後の方向性
基本目標1 稼ぐ地域をつくり、雇用を創出する	総務企画課 企画財政室	都市交流施設周辺整備事業	・平成30年度に事業着手し、令和5年10月開業、オープニングイベントを実施。 ・PR TIMESを使用したプレスリリース配信	・「まちのオフィス」（コワーキングスペース）が低稼働となっており、改善が必要。 ・多様な世代が集い、心地よく過ごせる施設としての環境整備が求められている。	・休憩施設としての道の駅を超えて旅の目的地となるよう、フルーツの収穫ができるスペースの整備や遊具の設置に向けた検討を進める。 ・高速バスの乗入れに向けて、バス事業者への働きかけを継続する。
	地域振興課 まちづくり推進室	道の駅保田小学校を活用したイベントの開催 ・開校記念祭等	施設全体で来場者数約80万人、売上高約7.2億（税込） ・利用者数（レジ通過者数）：268,483人（前年比98.6％） ・集荷組合売上高：約1億円（前年比91％） ・出荷組合会員数：212人（前年比95.9％）	開校から8年以上が経過し、徐々に施設の設備・備品が交換時期を迎え、不具合が生じてきている部分が見受けられるため、計画的な修繕を実施する必要がある。	既存のイベントだけでなく、新たなイベントの創出により、さらなる地域への人の流入を生む。また、施設の計画的な修繕により、施設の適切な維持管理・運営を実施する。
	地域振興課 農林水産振興室	佐久間地区活性化推進協議会で7回会議を開催し、地域活性化について話し合いを行った。	現状における課題やその解決策について検討を行った。景観整備としてヒマワリを植栽し、交流人口の増加を図る。	地域住民が参加できるような体制を考えなければならぬ。	今後も話し合いを続け、地域住民の関わりがより深くなるような内容を話し合う。
基本目標2 本町への新しい人の流れをつくる	総務企画課 企画財政室	・通勤・通学支援助成金 ・地域活性化起業人の活用 ・企業版ふるさと納税の推進	・通勤は6人、通学は8人を支援。 ・DX推進担当の地域活性化起業人を委嘱、庁内の業務改善に向けて業務の棚卸、職員によるプロジェクトチームによる施策検討を行った。 ・企業版ふるさと納税として4件2,800千円の寄附があり、地方創生関連事業の財源とした。	・現状では、公共交通機関の利用・蘇我以北を対象としているが、幅広い支援を求める声が寄せられている。高速バスは電車で比べ移動時間が短い、運賃が高く通学での利用は難しい。 ・山積する地域課題に対応していくために、積極的な外部人材の活用が望まれる。 ・企業版ふるさと納税は、前年度と比べると金額は増加しているが、新たな財源確保に向けて更なる呼びかけが必要である。	・今後も通勤・通学支援を継続。 ・地域活性化起業人をはじめ、地域プロジェクトマネージャーや地域おこし協力隊など外部人材の積極的な活用を検討していく。 ・企業版ふるさと納税を希望する企業の斡旋を行うマッチングサービスを複数導入することで、企業との接点を増加させる。
	地域振興課 まちづくり推進室	・固定資産税納税通知書に空き家バンク制度周知のチラシを同封。 ・移住希望者への物件情報の提供。	新規登録物件：15件 成約件数：7件	・鋸南町の空き家の需要に対して、供給できる空き家の数が少ない。また、空き家バンクへの掲載に意欲的な所有者が少ない。 ・令和3年1月から取り扱いをスタートした農地付き空き家の認知度がまだ低い。	引き続き、空き家バンク制度の利用促進を行い、新規空き家（農地付き含む）の開拓や制度周知を行っていく。 なお、制度周知については、新たにチラシ等を作成し訴求する。
		ジビエイベント・花まつりの実施	・ジビエイベント：350人来訪 ・花まつり：約6.5万人来訪（水仙32,418人、桜33,015人） →前年約6.4万人（約1.6％増加）	コロナ5類移行を受けて、中止となっていたイベントが開催されてきたが、コロナ禍前と同じ内容のイベントは出来ていない。以前の状況に戻るまでは時間がかかると思われる。	5類移行を良い機会とし、必要なイベント、不要なイベントを仕分け、内容についても議論していく。
		①ふるさと回帰支援センターとの連携 ②ふるさと回帰フェア2023への出展 ③千葉県移住相談会への出展	①鋸南町に関する資料の設置、センターを訪れた移住検討者への案内対応。 ②相談対応：11組17人（全体来場者：21,845人） ③相談対応：14組21人（延べ相談件数：194組291人）	・移住希望者がいても、町内に案内できる物件が少なく、希望に答えられないケースが生じている。 ・各相談会等への参加により、移住希望者へのアプローチはできているが、その後の継続したフォローの体制が構築できていない。	・外部人材の登用も含めた、相談体制の確立。 ・移住相談会等への積極的な参加による、PR及び移住希望者への情報提供機会の創出。
	建設水道課 建設環境室	○住宅取得奨励金事業 ○住宅リフォーム補助事業 ○空家対策協議会	○住宅取得奨励金事業 6件（転入者2件・子育て世帯2件）、2,800千円を補助 ○住宅リフォーム補助事業 19件、2,934千円を補助 ○空家等対策計画の更新及び対策協議会の開催	○住宅取得奨励金事業 6件中、転入者への補助は2件だったため、転入者の更なる制度活用が望まれる。 令和5年9月に制度を拡充しており、町報、ホームページを活用した広報活動に併せて、建築確認申請等から直接施主への紹介等により周知徹底していく。 ○住宅リフォーム補助事業 19件の活用があり、予定件数は達成したが、更なる制度活用が望まれる。 ○空家件数312件、特定家屋件数60件が確認されており、所有者による是正が望まれる。	○住宅取得奨励金事業 ○住宅リフォーム補助事業 移住定住のための基盤整備として、制度の拡充を検討しつつ継続して事業を行っていく。町外者の制度利用を促進するため、積極的な情報発信を行っていく。 ○令和4年度に更新した空家等対策計画に沿って事業を進める。

基本目標	担当課	実施した事業内容	成果	課題	今後の方向性
基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	税務住民課 住民保険室	結婚新生活支援事業	実績 1件	結婚に対して経済的に支援を行うことで、早期化・出産へと繋げたい。	引き続きホームページ・SNS・広報誌への掲載や県運用のチーパススマイルを活用し、周知について連携を図る。
	地域振興課 農林水産振興室	出会い応援サポーターの定例会を9回、視察を1回開催し、出会い応援イベント等について話し合いを行った。	出会い応援イベントを2回開催し、延べ人数で男性14人、女性12人の参加があった。	・若者の結婚観が大きく変貌し、結婚しないという選択が増加している。 ・人口減少等に伴い、若者が交流する機会が減少している。	若者が参加しやすい出会い応援イベントを開催し、出会いの場を提供する。
	保健福祉課 健康推進室	出産・子育て応援交付金事業の中で、継続して出産前後にアンケートを実施した。乳児家庭全戸訪問事業では、出産後4カ月までの全家庭を訪問し、個別の支援ニーズの把握に努め、乳幼児健診後も発達フォロー教室を開催し、各々の家庭に寄り添った個別支援を行った。	妊娠届出時から出産、子育てまで、切れ目のない対面対応を行っていくことにより、信頼関係を構築し、様々な相談等を受け、それぞれに必要な援助が行えることで、子育て世代に関わる伴走型の支援に繋がっている。	個々の子育て世帯に対する支援が多様化する中で、専門職の確保、支援体制の確立が必要。	多様化する支援に対して、町全体としてどういった形で対応していけるかを検討し、関係機関等とも連携していく必要がある。
	教育課 教育総務室	子育て世帯の経済的負担を軽減するため、町内の保育所、幼稚園、小学校、中学校に通っている児童生徒の給食費を助成による無償化を行った。対象者は、保護者と児童生徒が町内に住んでいる者に限る。 (給食費月額助成額) 幼稚園児、小学生 4,700円、中学生 5,300円 保育園児 3歳以上 5,000円、3歳未満 7,600円	給食費無償化実績 合計 358人 16,462,340円 ・幼稚園児 39人 2,007,500円 ・小学生 175人 8,601,240円 ・中学生 105人 5,822,100円 ・保育園児 39人 2,561,200円 ・特別支援 1人 31,500円	この取組みは、実践している事例が少ないことから、移住・定住を検討している方に積極的に情報発信していきたい。	継続していく。

基本目標	担当課	実施した事業内容	成果	課題	今後の方向性
基本目標4 ひとが集う、魅力あるまちづくりを推進する	総務企画課 総務管理室	町民の自主的な地域の特性に応じた防災活動の推進のため、自主防災組織等が購入する資機材、備蓄品の購入に対し補助。 【補助内容】 設立時60万円、次年度以降は事業費の2/3を20万円を限度に補助。	【実績】 ・新規設立団体:0団体 ・拡充団体:0団体 ・カバー率:76.6%(令和5年度末)	・順調に拡大しているが、新規団体が伸び悩み気味。 ・人口減少や地域の高齢化が進み、組織運営の将来不安は否めない。 ・各地域の防災意識に乖離があるのも事実、民度を同じレベルに向上させる必要がある。	・地域全体の防災意識の向上に向け、防災訓練や防災講演会、講習会、研修会などの実施。 現在の補助制度の維持。 ・個々の自主防災組織の活動内容の充実と横のつながりの強化。
	総務企画課 企画財政室	・庁内外のDXに向けて地域活性化起業人を委嘱、業務改善に向けて業務の棚卸、職員プロジェクトチームによる施策の検討を実施。 ・新しい公共交通体系を構築するため、AIオンデマンド交通の実証運行を10月から3月末まで実施。	・内閣府の地方創生人材支援制度の活用により株式会社フォーバルからデジタル専門人材の派遣を受入れ。 ・DXの一環としてペーパーレス化を推進するため、ドキュメントハンドリングソフトを導入。 ・AIオンデマンド交通は、10月から3月末まで1日あたり3.8人の利用があった。	・町職員には、デジタル専門人材が存在しないため、デジタル化の推進が難しいが、職員プロジェクトチームの設置によって、職員のデジタル化への意識醸成につながった。 ・AIオンデマンド交通の本格運行に向けた利用促進。	・引き続き職員プロジェクトチームを設置し、デジタル実装に向けた取組を推進する。 ・ペーパーレス化をより推進するため、ドキュメントハンドリングソフトの更なる活用に向けて、プロジェクトチームメンバーが中心となって各課での取組を検討・実施していく。 ・令和6年4月から9月末までAIオンデマンド交通の実証運行を継続する。
	地域振興課 まちづくり推進室	佐久間ダム及び町内の景観整備のため、花木の植栽及び除草作業を実施。	河津桜などの桜の他には、アジサイやレンギョウを植栽。除草作業は年間通じて実施した。 ・水仙まつり入込(R5.12～R6.2):32,418人 ・桜まつり入込(R6.2～R6.4):33,015人	毎年草刈りを実施しなければならない箇所が増加しているが、職員、会計年度任用職員の人数に変わりがなく、作業が遅れ気味になる。	福島県の「花見山公園」を目指し、来訪客の目を楽しませられるよう、既に植栽の完了している花木の維持管理にも努め、さらに、現状の品種に加え、アカバナフヨウなどの品種も増やして植栽も行っていく。
	建設水道課 建設環境室	ゴミ拾いのイベント事業	・年2回の清掃活動を実施し、5月のゴミゼロ運動では7t、12月の一斉清掃では5tのゴミを収集した。 ・その他環境関連イベントの実施はなかったが、住民主体の環境美化団体の活動が行われており、収集・処分等の支援を行った。	環境関連のイベントは実施せず、周知のみとなった。	・年2回の清掃活動は継続して行う。また、環境美化団体の清掃活動の支援に引き続き取り組んでいく。 ・環境関連のイベントの実施については、環境美化団体とも連携しつつ、検討していく。
	教育課 生涯学習室	・中央公民館では、鋸南町の魅力をテーマにした様々な教室を開催した。 ①太平洋戦争戦跡めぐり 1回 ②染め物教室(びわ・さくら) 各1回 ③浮世絵版画刷り体験 3回 ・小中学校(小学5年生・中学2年生)では、日本遺産候補地事業として「鋸山の教室」を開催し、実際に鋸山登山を企画し、ガイドボランティア人材を活用した。 ①教室 2回(小・中) ②現地学習 2回(小・中) ③天羽中・鋸南中「鋸山プロジェクト」(鋸山登山) 1回 ・海洋センターでは、小学校の低学年・高学年を対象とし、夏休みに自然体験活動(海遊び・鋸山登山・青少年相談員作成かるた大会)を盛り込んだBG塾を延べ6回開催した。	町の歴史や文化を学習することで、郷土への愛着を深めることができた。	・参加者が固定化する傾向がみられる。 ・ガイド人材の不足。	この取組は継続していく。
	教育課 教育総務室	①「命の大切さを考える防災教育」をテーマに小学4年生から中学3年生まで、自分だけで防災管理ができるようになることを目標に総合的な学習の時間に取組んだ。その後、教育の日に小学6年生と中学生の各学年グループが防災学習への取組み、鋸南町の実態と課題について発表した。 ②中学校1年生は、フィールドワークでガイドボランティアから地域の歴史や文化を学んだ。源頼朝、醍醐新兵衛、菱川師宣等の町の偉人について知識を深めた。 1回	・鋸南町の災害を想定した課題やその解決策について、子どもたちが真剣に考え発表することで、郷土への愛着を深めることができた。 ・町の歴史を学び、町の素晴らしさを再認識する機会となった。	新たな教科の増など、小学校における地域学習の授業時間の確保が年々難しい状況である。	この取組みは継続していく。

第2期鋸南町まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況(令和5年度分)

基本目標	指標名	単位	現在値	中間目標値	中間実績値			最終目標値
			令和2年	令和5年	令和5年	達成率	達成状況	令和7年
基本目標1 稼ぐ地域をつくり、雇用を創出する	事業所数	事業所	382	378	355	94%	○	375
	農業法人の参入数	社	1	2	1	50%	△	4
	観光入込客数	人	1,352,810	1,500,000	1,475,133	98%	○	1,700,000
基本目標2 本町への新しい人の流れをつくる	年間の転出超過人数	人	116	85	0	—	◎	75
	観光入込客数(再掲)	人	1,352,810	1,500,000	1,475,133	98%	○	1,700,000
	空き家バンク登録件数	件	9	10	15	150%	◎	10
基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	出生数	人	15	30	9	30%	△	35
	婚姻件数	件	11	25	7	28%	△	30
基本目標4 ひとが集う、魅力あるまちづくりを推進する	鋸南町を住みよいと思う住民の割合	%	51.8	55	47	85%	○	60
	子どものふるさと教育の実施回数	回	3	6	19	317%	◎	10
	自主防災組織率	%	67.1	80	76.6	96%	○	90

達成状況 ◎: 目標達成(達成率100%以上) 3
○: 目標をほぼ達成(達成率80%以上100%未満) 5
△: 目標を未達成(達成率80%未満) 3